

自己点検・自己評価報告書(令和3年度)

学校法人瓶井学園 日本コンピュータ専門学校

令和4年4月1日作成

1. 学校の教育目標

- (1) 専門知識・技術を習得させ、業界ニーズに応えられる人材を育成する。
- (2) 自主性・協調性を養い、自学自習で知識・技術の向上を図る。
- (3) 夢を将来の目標に変え、目標に向かうことのできる自立心を養う。
- (4) 人間力（コミュニケーションスキル、公共心、対人関係）の向上を図る。

2. 令和3度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- (1) 企業等と連携し、業界ニーズに応えられる知識力・技術力を養う実践的かつ専門的な教育を行う。
- (2) 学生だけでなく、卒業生・保護者にも、本校の教育に対する理解を深めていただけるよう情報を発信する。
- (3) 授業評価アンケートを実施し、教育内容等の充実を図る。
- (4) 教員の資質・指導力を向上させるための施策を増やす。
- (5) 教育課程編成委員会での意見を検討し、カリキュラムを検討し実施する。

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1). 教育理念・目標

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1				評価委員 確認
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	④	3	2	1	
学校における職業教育の特色は明確か	④	3	2	1	
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④	3	2	1	
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に 周知されているか	4	③	2	1	
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて 方向づけられているか	④	3	2	1	

【総括・特記事項】

- ・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などについて、教職員は熟知し、折に触れ学生に伝えており、学生は概ね理解している。対外的には、ホームページや学校案内等に掲載しており、周知されている。また、3つのポリシー(アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー)をホームページや学校案内等に掲載している。
- ・コロナ禍で入学式後、実施保護者懇親会を実施した。
父兄からは、授業内容や卒業後の進路等について意見が出たため就職実績を例に挙げて説明し理解をいただいた。
- ・保護者の卒業式の列席については、コロナ禍のため保護者の列席なしで実施した。
- ・学校の特色・将来構想について、社会の変化や業界の流れに対応し、適宜見直しを行い、学生に業界ニーズを伝えどのような技術の習得が必要かなどを説明している。
- ・コミュニケーション能力の向上、業界ニーズに合ったカリキュラムの導入、ドキュメントの書き方などをカリキュラムに導入し、教育を進めている。より一層の充実を図る。

(2). 学校運営

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1				評価委員 確認
目的等に沿った運営方針が策定されているか	④	3	2	1	
運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④	3	2	1	
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、 有効に機能しているか	④	3	2	1	
人事、給与に関する規程等は整備されているか	④	3	2	1	
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	④	3	2	1	
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	④	3	2	1	
教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	④	3	2	1	
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	③	2	1	

【総括・特記事項】

- ・企業との連携の強化し、企業等の外部意見を取り入れて教育内容の改善、教職員の質向上、情報公開に取り組んだ。
- ・定められた運営方針は、管理者会議、学科会議等を通じて教職員に伝達されている。
- ・学校の目的、目標の達成や社会のニーズへの対応のため、教育課程編成委員会を開催し、企業・業界・団体より広く意見を求め授業内容を改善している。
- ・教育活動等に関する情報公開は、ホームページや学校案内、学生募集要項等で行っているが、ニーズに沿ったものになっているかどうか、教育課程編成委員会等を通じて適宜見直す必要がある。
- ・ホームページにて「自己点検・自己評価報告書」、「学校関係者評価委員会報告書」の情報公開を行い、「学校案内」、「募集要項」等についてはホームページで閲覧できるようにしている。
学校関係者評価委員会に置いては公開項目の検討を重ねている。
- ・学校案内等の資料請求や体験入学の申し込みは、インターネットからの申し込みが増えているため資料請求や体験入学の申し込みがしやすいように Web のフォームを改善していく。
また、ネット出願もできるようにしているため出願しやすいようにしている。
資料請求 → 体験入学(オープンキャンパス) → 入学までの状況分析を実施する必要がある。
- ・「成績処理」、「証明書発行」、「卒業台帳の作成」、「卒業証書の発行」等の業務のデータ化が整備され効率化が図られているが入学から卒業までの一元管理に向けて、事務側と教務側で意見交換を行っている。事務側と教務側での連携については、強化が図られており処理はスムーズに行われている。
成績処理に関しては、令和元年度より自動化を進めている。就学中、卒業までのデータ化ができており、一部は自動化を進めている。

(3) . 教育活動

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1	評価委員 確認
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④ 3 2 1	
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④ 3 2 1	
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④ 3 2 1	
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4 ③ 2 1	
関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	④ 3 2 1	
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4 ③ 2 1	
授業評価の実施・評価体制はあるか	④ 3 2 1	
職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4 ③ 2 1	
成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④ 3 2 1	
資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④ 3 2 1	
人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④ 3 2 1	
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	④ 3 2 1	
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力・育成など資質向上のための取組が行われているか	4 ③ 2 1	
職員の能力開発のための研修等が行われているか	④ 3 2 1	

【総括・特記事項】

- ・専門分野における実践的な職業教育として、企業等による授業・実習・演習を取り入れ、教科内容や教育方法の工夫している。
- ・カリキュラム変更については、教育課程編成委員会の意見を基に検討し、業界ニーズに合うカリキュラムに積極的に変更している。
- ・実際に業界で活躍している専門分野の講師や協定締結企業から専門性の高い講師を派遣していただいて授業を行っており、十分なレベルの教職員を確保できているが、より一層のスキルアップを目指し教職員の外部研修等を奨励している。
- ・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力・育成など資質向上、能力開発のための研修会の参加や勉強会を積極的に取り入れている。
- ・学内に企業からの専門家を招いて、実践的な実習等を実施している。
- ・コミュニケーションスキル、プレゼンテーションスキルについては、引き続き実施している。
- ・学生に授業評価アンケートを年2回実施して評価内容を各先生にフィードバックして改善を図っている。アンケート集計に3日程度かかっていたが、令和3年度 第二回授業評価アンケートは、Web アンケートを実施した。アンケート集計も数分でできるため効率が良くなっている。また、アンケート以外で学生から出た意見についてもできる限り対応している。
- ・今後は、業界ニーズを調査し、講義内容や実習内容の充実を図る。
- ・オンラインでの企業説明会は、業界ニーズや具体的な仕事のワークフロー、システム開発の仕組み等について講義を行った後に求人情報について説明していただいている。また、1年生も参加させて勉強している内容の必要性や将来就きたい職種等を決めるための参考にさせている。

(4) . 学修成果

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1				評価委員 確認
就職率の向上が図られているか	4	③	2	1	
資格取得率の向上が図られているか	4	3	②	1	
退学率の低減が図られているか	4	3	②	1	
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	③	2	1	
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	④	3	2	1	

【総括・特記事項】

- ・就職試験、面接指導等、就職に向けての指導を十分に行っている。
本人が希望している職種に就職している学生が増えている。
- ・本校は、基本情報技術者試験の午前試験免除対象校として認定されており、学内で年4回実施される午前免除試験に合格すると2回までの本試験の午前が免除になる制度を利用して資格取得率の向上には、重点的に取り組んでいる。しかし、コロナ感染症の影響で休講、オンライン授業等で資格対策授業が実施できず認定単位まで授業が進まず、1回目、2回目の免除試験が実施できず合格率が下がっている。特にIT系は、資格がなくても就職できるのでモチベーションも下がっている。
- ・就職ガイダンス、企業説明会を1年次から実施し、就職意欲の向上を図っているが、コロナ感染症の影響もあってか、就職率の向上は、図られていない。
教務会議で就職活動を早めに実施させることが決定し、2月から1年の学生を指導している。
3月には、内定者が出ている。
特に情報処理システム科 気象予報士コースの学生においては、合格率が5%前後で難関の気象予報士試験(国試)に合格しないと気象関係の仕事に就けない。卒業後5年越しで気象予報士試験に挑戦し、令和2年12月から気象会社で働いている卒業生もいる。
- ・進路変更(就職決定など)、経済的理由、学習意欲減退などの理由から退学者があった。
- ・コロナ禍で緊急事態宣言発令が多くその期間は、IT系の学生は、オンライン授業を実施、クリエイティブ系の学生は、ハイブリッドオンライン授業を全授業数の半分以上実施した。
その結果、知識・技術レベルが低くなっている。
コロナ禍の学生の知識不足で就職内定者が減少している可能性がある。
- ・卒業生の就業先企業等との産学連携の理解・協力を得ており、在校生の就職にもつながっている。
- ・ほぼ毎週、報告会を実施し、学生の修学状況の確認を行って、できる限り早急に指導を行い、退学率低下に努めている。
- ・すべての卒業生の把握はできていないが、在校生については、ほぼ把握している。

(5). 学生支援

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1				評価委員 確認
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④	3	2	1	
学生相談に関する体制は整備されているか	④	3	2	1	
学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	④	3	2	1	
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	④	3	2	1	
課外活動に対する支援体制は整備されているか	④	3	2	1	
学生への生活環境への支援は行われているか	4	③	2	1	
保護者と適切に連携しているか	4	③	2	1	
卒業生への支援体制はあるか	④	3	2	1	
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	④	3	2	1	
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか	④	3	2	1	

【総括・特記事項】

- ・学級担任制により、学生の相談には主に担任が対応し、学科責任者が企業との窓口となっており有効に機能している。
- ・学生が個々に就職活動をするのではなく、学校と相談の上で進路を決定する仕組みになっており進路・就職に関する支援体制は学生にとって充実したものになっている。
自主的に就職活動を行い本人が目指す就職先に決定できるようにも指導している。
- ・成績・出席の状態について学級担任より保護者に連絡しており、特に成績・出席の状態が芳しくない学生の保護者に対しては詳しく状況を説明し、懇談や家庭訪問を行うなど適切に対応している。
- ・生活支援については、学内奨学金、学外奨学金等で学費軽減を行っている。また、面接や面談を行って生活環境など確認しているが全員の状況が把握できてはいない。
優秀な学生の保護者に対しては対応できていない面があるので成績優秀者の保護者を卒業式後のパーティーに招待し懇談する機会を得ているが、令和3年度は、新型コロナウイルスの影響で実施できていない。
- ・夜間部を設置しており、社会人も働きながら資格取得、キャリアアップを目指すことができる体制となっている。
- ・留学生の日本語能力の低下が目立つようになり、授業についていけないなどの問題が増えており教務会議で学内では、母国で会話しない(日本語または、英語のみ)、日本語能力が低い学生については、日本語能力試験N2級以上の合格を目指して講習会を実施している。

(6). 教育環境

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1				評価委員 確認
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	④	3	2	1	
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	③	2	1	
防災に対する体制は整備されているか	④	3	2	1	

【総括・特記事項】

- ・最新設備の導入・設備のリニューアルについて適切に対応しており、教育上有効に機能している。
- ・学内外の実習については、積極的に取り組んでいるが、さらなる充実を図る。
- ・非常時における教職員の役割分担を決め、適切な誘導ができる体制をとっている。

(7). 学生の受入れ募集

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
学生募集活動は、適正に行われているか	④	3	2	1
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	④	3	2	1
学納金は妥当なものとなっているか	④	3	2	1

【総括・特記事項】

- ・入学事務局、広報担当、広報委員を中心に、全教職員が適切な学生募集活動を行っている。
- ・学校案内、ホームページ等において、授業内容、取得できる資格の内容等を示しており、適宜見直し・改良しているが、より正確かつタイムリーに志願者・保護者等に伝わるものとなるよう努める必要がある。
- ・令和3年度も引き続きホームページにて「学校案内」、「募集要項」を閲覧できるようにした。
- ・入学選考方法は学生募集要項に明記しており、適切かつ公平な基準に基づき行われている。
- ・入学選考面接は、複数担当者にて実施している。
- ・学納金は、教育内容、社会状況、学生及び保護者の負担感等を考慮して設定され、また本校独自の奨学金制度も利用できるようになっている。
- ・令和元年度から実施された「高等教育の修学支援新制度」の奨学金制度で学費負担軽減が図られている。

(8). 財務

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1				評価委員 確認
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	④	3	2	1	
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④	3	2	1	
財務について会計監査が適正に行われているか	④	3	2	1	
財務情報公開の体制整備はできているか	④	3	2	1	

【総括・特記事項】

- ・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえる。
- ・学校会計基準により財務諸表が作成され、予算と収支管理が行われている。
- ・財務について、会計監査が適正に行われている。
- ・学園ホームページにて、資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表を公表している。

(9). 法令等の遵守

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1				評価委員 確認
法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④	3	2	1	
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④	3	2	1	
自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	④	3	2	1	
自己評価結果を公開しているか	④	3	2	1	

【総括・特記事項】

- ・法令や設置基準等が遵守され、適正な運営を行っている。また各部門において、会議等を行いより深い理解に努めている。
- ・個人情報保護委員会を設置し、教職員教育を実施している。
- ・自己点検・自己評価を実施し、問題点の改善に取り組んでいる。
- ・ホームページにて「自己点検・自己評価」ならびに「学校関係者評価委員会報告書」を公表している。

(10). 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1				評価委員 確認
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	④	3	2	1	
学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4	③	2	1	
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	④	3	2	1	

【総括・特記事項】

- ・中学校や高等学校生徒の職場体験の受入れや無料公開講座等を行い、各教育機関や地域との連携・交流を図っている。
- ・ボランティア活動を奨励しているが、参加者が少なく、普及活動の強化が必要である。
- ・大阪府職業訓練 長期高度人材育成コースの受講生を11名受け入れている。

(11). 国際交流

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1				評価委員 確認
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	④	3	2	1	
留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	④	3	2	1	
留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	④	3	2	1	
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	4	③	2	1	

【総括・特記事項】

- ・留学生の学習・生活指導等については、学級担任が密にコミュニケーションを取り、学習能力・習熟度・生活状況等を把握している。
- ・留学生の状況は、担任が把握し、また、専門の担当者を配置している。

4. 令和3年の学校関係者評価委員会の委員の方からのご意見について

1) オンラインになって授業にかかる手間が2倍ぐらいかかると言われていたが、実際はどうかについて

令和3年度は、全授業の半分以上がオンライン授業(IT系)、ハイブリッドオンライン授業(クリエイティブ系)になった。

クリエイティブ系は、学校にある機材を使わないとできないコースは、登校授業を実施。

在宅で作品制作が可能な学生は、在宅で実施させ進捗状況を見るために一週間交代で登校させた。

オンライン授業での問題点

- ・説明で板書する内容もすべて教材に入れる必要があり、教材作成にかなりの時間を要する。
 - ・ハイブリッドオンライン授業にしても上記の教材が必要になる。
 - ・オンライン授業に参加していても居眠りしている学生や勉強をしていない学生の把握が難しい。
 - ・定期試験の実施が難しい。答えをLINEなどで送っていてもわからない。
- 分散登校で試験の実施も検討したが2種類以上の試験問題を作成する必要があるため実施できなかった。
- ・日本語能力の低い学生は、先生の説明がわからないので寝てしまうこともあった。
 - ・以下は、令和3年度の教育課程編成委員会で委員からの意見について
 - ・1問1答の問題にしてカンニング防止を行ってはどうか。
 - ・授業をオンデマンド化してはどうか。
 - ・短い動画を配信してそれに対して答えるようにしてはどうか。

結果：オンライン授業のデメリットの根本的な解決策はない。

いずれにしても教員の負担増になるため実施できていない。

他校を含めほぼ一週間授業をされている非常勤の先生が、定期試験期間中は、課題採点のため睡眠不足、徹夜した日もあったとのことでした。

先日、ゲーム会社が企業説明会を実施されその時に言われておりましたが、令和3年度に卒業した大学生、専門学校生の新入社員は、かなりレベルが低く研修で苦しんでいるとのことでした。これもオンライン授業が長かったことが影響しているとのことでした。

2) オンライン授業で1人ひとりの様子を見ていかないと空回りになり、学生の理解に繋がらない。

40人以上のオンライン授業があつたりしたため1人ひとりの様子を見ていると授業が進まない。令和3年度は、長期高度人材育成コースの生徒がおられたので授業を進めないとクレームが出る可能性があつた。

3) 日本語能力の低い留学生の就職について

学力の高い留学生でも日本語能力が低いと面接で不合格になっている。

5. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

- ・オンラインオープンキャンパスを積極的に取り入れた。
オンラインオープンキャンパスで入学してきた学生がいる。
特に気象予報士コースは、遠方（高知県、三重県、埼玉県など）から入学しており、オンラインオープンキャンパスとオンライン入試で入学が決まって人数も増えている。
- ・日本語能力の低い留学生について
日本語能力試験 N2 級、N1 級合格を目指して講習会を実施している。実際に合格者も出ている。
学校内では、できるだけ日本語で話すように指導しているが、授業時間以外は、母国語で話しているようである。
- ・退学率について
令和3年度は、退学者を多く出してしまった。原因として考えられるのは、オンライン授業が長く、授業についていけず諦めてしまった学生いると考えられる。また学生の状況が把握しにくい部分もあり退学意思が決まってから相談にきた学生もいる。
- ・就職率について
オンライン授業が多く勉強できていない学生の就職指導を夏休み中に行って IT やクリエイティブ系以外の職種を紹介し、営業などの職種を紹介し決まった学生もいる。
高い学力を持っていたとしてもコミュニケーション能力の低い学生や日本語能力の低い留学生は、合格に至らなかった。1 年次の 2 月からオンライン説明を実施し、就職率の向上を図っている。
- ・就職への意欲向上のために求人企業の学内説明会(オンラインを含む)において1時間は、業界ニーズ、求める人材像、具体的な仕事内容、学生時代にやってほしいなどを説明してから残りの30分で求人の説明をしていただくようお願いしている。
この説明会は、1 年生から参加させ将来の目標を決める参考と今勉強している内容の重要性を意識させている。学生からは、一定の評価を得た。(すべてオンラインで実施した。)
- ・新型コロナウイルス感染症対策は、ルールを決め指導を徹底した。現在のところ学校内での感染者は発生していない。学校以外での濃厚接触者や感染者は、登校停止などの徹底した指導を行った。
- ・コミュニケーション能力の低い学生についてもいろいろ検討し、試みているが、あまり改善されていない。コロナ禍の指導なのか出席を取るときも手を上げるだけで返事しない学生がほとんどである。
- ・学生の技術習得、就業意欲の向上のため、学生のみならず保護者に対しても、本校の教育理念・目標を明確に示し、理解を得る必要がある。そのために保護者と教職員との懇談できる機会を増やしていかなければならないと考えている。
- ・企業・業界団体等との連携を強化し、学生の実践的な技術・技能の習得のために教員の外部研修への参加や国家資格取得等、専門的知識・技術・資質向上を学校として重点目標とし、奨励していく。技術的な外部研修は、オンラインで実施しているので受講しやすくなっている。
- ・学生に授業評価アンケートを年2回実施して評価内容を各先生にフィードバックして改善を図っている。また、アンケート以外で学生から出た意見についてもできる限り対応している。
更なる改善を行い、更に学びやすい環境づくりを目指す。
学生からの授業評価や出た意見に関しては、教育課程編成委員会において意見をいただき改善方法を検討して教務会議を経て改善を実施している。
- ・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているかについては、学生の意見を取り入れるなどをして学生にわかりやすい教材作成に努めている。教材作成に時間がかかるため思うように進まないが教材の質や授業・実習内容、授業・実習方法も向上している。各教員に教材のデジタル化も推奨している。
- ・資格取得率の向上が図られていないため資格取得意欲の向上のための指導をしているが IT 系は、資格取得しなくても仕事に就けるため指導に苦慮している。
令和3年度は、資格取得の講習会等があまり実施できていない。また、試験勉強の進捗状況が確認できていない。
- ・令和4年度からは、教務会議で決定し以下の内容を実施する。
学習成果発表会を7月、11月、2月の3回実施し学習意欲の向上を図ることを目的としている。
IT 系の1年生は、資格取得(基本情報技術者試験、気象予報士試験)のための学習の進捗状況を発表する。また、Python 言語を使った課題(1回目は、グラフの作成)について発表する。
クリエイティブ系の1年生は、作品制作の進捗状況について発表する。
IT 系、クリエイティブ系の2年生は、卒業研究、卒業制作、課題研究、課題制作の進捗状況に

ついて発表する。

- ・学園の奨学金に加え、令和3年度「高等教育の修学支援新制度」の奨学金制度で学費負担軽減が図られ就学しやすい環境になっている。
- ・成績評価は、秀・優・良・可に加えてGPAを利用して客観的な評価を実施している。
- ・成績証明書、GPA評価の自動化を進めているが現在は、Excel でやっているため手作業の部分が多くなるため今後は、データベース化し、できる限り自動化を進めたい。
資料請求、オープンキャンパス（体験入学）、入学から卒業とその後までの一元管理についても今後システム化を検討していきたい。
令和4年度は、資料請求→オープンキャンパス（体験入学）→アンケート→入学までを分析できるシステムを作成し入学を増やすための分析システムを制作する。
- ・今後も業界ニーズを調査し、教育課程編成委員会と教務会議を経て講義・実習内容や授業・実習方法、必要な設備の導入などの更なる充実を図る。